

## デジタルビデオカメラの映像を用いた保育施設の食育の評価

坂井 孝\*

**Assessment of Day-care Center Food and Nutrition Education using Video**

Takashi Sakai\*

## キーワード

保育施設、食育、評価

## Key words

day-care center, food and nutrition education, assessment

**1. はじめに**

我が国の食育の取り組みは、平成17年の食育基本法の公布以降、国、都道府県、市町村や関係団体などが中心となり推進されてきた。その中で、子どもたちの食の乱れや健康への影響など社会状況の変化に伴い、保育所および保育園（以下、保育施設で示す）も例外ではなく、園児に対して様々な取り組みが行われている<sup>(1,2)</sup>。

保育施設における食育は、平成21年4月1日に施行された新たな保育所保育指針（厚生労働省告示第141号）において、保育の一環としての「食育」の役割について具体的に明示された。それによると、保育所における「食育」は、「健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培う」ことを目標としている（図1）。また、平成24年3月に厚生労働省が策定した「保育所における食事提供のガイドライン」（表1）でも保育所保育指針と同様に「食育」を保育の一環としてとらえることとし、状況把握、計画、実施、評価のマネジメントサイクルを実施することで、系統立てた一貫性のある食育、つまり食育の質の向上が求められている。

しかしながら、保育施設における食育活動は、毎回実践される内容が未整理で、各回のつながりが不明瞭であることが課題として指摘されている。これには様々な問題を含み、我々の調査においても、保育施設で食育を実施する上で、情報不足および人的不足という問題点<sup>(3)</sup>が抽出されている。

このような現状をふまえ、保育施設が抱えている情報不足と人材不足の問題点を解決する方策を検討する一環として、今回我々は、デジタルビデオカメラの映像を用いて、1)

---

\*さかい たかし：大阪国際大学短期大学部准教授〈2013.11.6受理〉

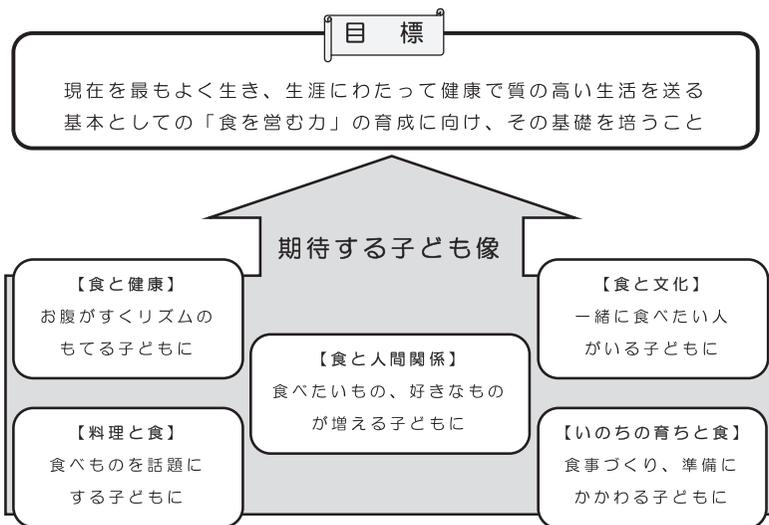


図1 楽しく食べる子どもに～保育施設における食育に関する指針～の基本構造

表1 保育所における食事の提供のガイドライン

子どもの食をめぐる現状

各種調査から子どもと保護者の「食」の現状と課題

保育所における食事提供の現状

全国調査から保育所における食事の提供の状況と課題

保育所における食事提供の意義と具体的なあり方

「発育・発達」「教育的役割」「保護者支援」の3つの視点から保育所の役割や質の向上を目指したあり方

保育所における食事提供の評価（チェックリスト）

子どもの最善の利益を考慮し、健全な心身の発達を図るための食事提供のあり方についての評価内容

保育施設内、保育施設同士、保育施設と大学等における情報の共有化とその活用の可能性について、2) 食育活動を質的な目的から分析し、教育内容の評価およびマネジメントサイクルに反映させる可能性の2点に着目して検討したので報告する。

2. 方法

1) 食育活動の取材

大阪府内のS保育園（以下、保育施設）に協力を得て、保育施設で行われている食育活動の取材を行った。取材形態はデジタルビデオカメラによる動画撮影とデジタルカメラに

表2 取材した食育活動

食育活動	ねらい
大根もち	園児自らが食材の栽培、収穫および調理を行う「食」や「料理」に関心をもつ
ランチバイキング	園児のたて割り班で、ランチバイキングをし、他年のお友達との交流を図る
お味噌汁づくり	園児自ら、昆布とかつお節からだしをつくる本物のだしの香りやおいしさを学ぶ
親子クッキング	地域の親子を対象にしたクッキング体験から、地域の方々に向けての食育推進を行う

よるスナップ撮影を行った。特にデジタルビデオカメラについては実践している保育士または栄養士の動きを中心に撮影した。本報告では、取材時期が平成19年から平成20年に実施されたものを基に解析を行った。表2に撮影した行事と保育施設が設定した「ねらい」を示した。保存したデジタルビデオカメラの映像から、保育士や栄養士の行動と園児達の気づきなど、活動記録媒体（逐語録、データは示さず）を作成し、情報の共有化を行った。

## 2) 食育活動の整理と内容分析

保存されているデジタルビデオカメラの映像の内容を、図1に示した期待する子ども像5項目、つまり「食と健康」、「食と人間関係」、「食と文化」、「いのちの育ちと食」、および「料理と食」の項目に分類し、食育活動の取材から得られた教育記録について保育士および栄養士による教育的関わりについての行動分析を行った。

## 3. 結果

### 1) 食育活動の取材

取材した4回の活動について、活動記録（デジタルビデオカメラの映像およびスナップ写真）を作成し、それぞれ保育施設および大学の双方で保管した。後日、記録されたデジタルビデオカメラの映像を基に、関係者間（保育士および栄養士）で食育活動内容の確認、実施の評価および改善策など検討した。その結果、各立場間での自己の振り返り（自己評価、園児たちの理解度）や活動内容の引継ぎ（詳細な活動状況、活動内容の共有化）などに活用できるなどの意見が挙げられた。つまりデジタルビデオカメラの映像により保育施設内の関係者間での情報の共有化が可能であることが明らかとなった。

### 2) 食育活動の整理と内容分析

デジタルビデオカメラの映像を基に、教育内容について図1に示した5項目に照らし合わせた結果を表3に示した。表からそれぞれの活動において、関連する項目すべてあるいは数項目に振り分けることが可能であった。このことから、項目毎に目的を明確にすることによって、各回の食育の内容に共通性を見いだすことが可能となり、全体を通して一貫性のある教育のあり方を把握することが可能となった。さらに、実施内容ごとに項目の充

表3 食育活動内容の分類

食育活動	園児の行動	項目*
大根もち	手洗い・うがいの実施 エプロンや三角巾の活用	食と健康
	班ごとにテーブルを囲み、楽しく食べる	食と人間関係
	園庭で栽培した大根の収穫、調理	いのちの育みと食 調理と食
	おろし金、ピーラー、ホットプレートなどの調理器具の使用	料理と食
クリスマス バイキング	手洗い・うがいの実施 エプロンや三角巾の活用	食と健康
	班ごとにテーブルを囲み、楽しく食べる	食と人間関係
	クリスマス飾り	食と文化
	食べたいものをおかわりする	料理と食
お味噌汁 づくり	手洗い・うがいの実施 エプロンや三角巾の活用	食と健康
	班ごとにテーブルを囲み、楽しく食べる	食と人間関係
	だし（かつお節とコンブ）をとる	食と文化
	園庭で栽培したみず菜の収穫、調理	いのちの育みと食 調理と食
	電磁調理器などの調理器具の使用	調理と食
親子 クッキング	手洗い・うがいの実施 エプロンや三角巾の活用	食と健康
	出来上がったものを親子で試食	食と人間関係
	ひな人形型の箱づくり	食と文化

\*；図1に示した期待する子ども像の5項目

足度が異なることから、全体を俯瞰し、教育内容の不足部分を充足させるように検討するマネジメントサイクルが実施可能となった。

#### 4. 考察

我が国では、平成23年3月末に「第2次食育推進基本計画」（内閣府HP）<sup>(4)</sup>が策定された。それによると、食育の「周知から実践へ」の概念の下、計画推進の最終年の平成27年度までの達成を目指す11の目標値が定量的に定められている。この基本計画のなかで、保育所では、新保育所保育指針に基づき、保育の一環としての食育を位置づけ、施設長、保育士、栄養士、調理員等の協力の下に努力規定が示されている。つまり、これからの保育施設で行う食育は、月間計画、年間計画、年次計画など保育全期間を通した一貫性のある計画を作成することが要求され、加えてその内容も問われてくることになる。しかしながら、多くの保育施設では日常業務に加え、実施した内容を評価すること、つまり食育のマネジメントサイクルを実践することは容易ではないことが推測される。それに加えて、「第2次食育推進基本計画」で示されているように、保育施設の栄養士は園児との関わり

をもつとともに、保護者に対する支援など、自ら社会的役割の拡大を進めていく必要がある。このような状況において、保育施設で充実した食育を実践するためには、人的不足の解消が急務である。そこで、今回我々は人的不足解消の一案として、栄養士資格や管理栄養士資格を持つ人材、つまり大学研究者との連携の可能性について検討した。その結果、本報告で示したように、食育活動について撮影されたデジタルビデオカメラの映像があれば、大学研究者と保育施設職員との間で、その内容を評価することが可能であることがわかった。その評価をもとにして次年度の食育年間計画を作成することにより、内容の一貫性を考慮した充実した食育が実践できると考えられる。さらにデジタルビデオカメラの映像自体は長期間保管できることから、必要ときに保育施設職員全員がフィードバックできるという利点もある。これらをふまえると、デジタルビデオカメラの映像は保育施設のみならず、様々な食育活動の場面で質的評価をする上で有効なツールであることが推察される。しかしながら、食育活動の質的評価をする上で、デジタルビデオカメラの映像の活用が有効であることは示すことができたが、一方において誰がデジタルビデオカメラで撮影をするのかという課題が残る。今回我々は、教員の研究活動の一環として自らが撮影したが、多くの施設となると限界がある。この点については、地域のボランティアなどを積極的に活用することも検討する必要がある。

以上のことから、デジタルビデオカメラの撮影に関する人的問題の検討が必要であるが、食育の計画づくりを進めていく上で、食育活動の取材（デジタルビデオカメラの映像）を分析することにより、保育施設における食育計画を作成することのみならず、計画から実践、および振り返りによる評価、再検討までの一連のマネジメントサイクルを、保育施設職員全員で進めていくことが可能となることが示唆された。

## 5. まとめ

保育施設における食育の質的向上を図るために、これまでに取材した食育活動について、デジタルカメラの映像を用いて行動評価を試みた。

- 1) デジタルビデオカメラなどによる活動記録を作成し保存することは、保育士と栄養士間での食育活動内容の確認、実施の評価および改善策の検討など、保育施設内の情報の共有化などに活用することができる。
- 2) それぞれのデジタルビデオカメラの映像を基にして、保育士または栄養士の動き、配慮点などについて整理することで、他の保育施設での食育活動を行う際の資料として活用できることが分かった。
- 3) 保育施設と大学研究者らが、デジタルビデオカメラの撮影記録内容を中心に食育実践の効率を検討することにより、内容をより充実したものにすることが示された。

以上のことから、保育施設で食育実践についての情報を共有し、年間を通じた食育のマネジメントサイクルを行うために、デジタルビデオカメラなどの記録媒体の有効な活用方法を検討することで、保育施設における食育の充実を図る一助になることが示唆された。

## 6. 謝辞

本報告を作成するにあたり、ご協力いただきました保育施設関係者の皆様に感謝申し上げます。

### 参考文献

- 1) 関和子：食育講座－小児医療に関わる人のために Ⅲ. 食育活動の現状 1. 保育所では、小児科臨床、Vol. 61、No. 7、p130～136、2008年
- 2) 小野友紀：保育所における食育、チャイルドヘルス、Vol. 12、No. 1、p20～23、2009年
- 3) 坂井孝、中田和江、土田幸恵：保育施設における食育の現状について、羽衣国際大学人間生活学部研究紀要、第3巻、p33～42、2008年3月
- 4) <http://www8.cao.go.jp/syokuiku/about/plan/>（内閣府HP）